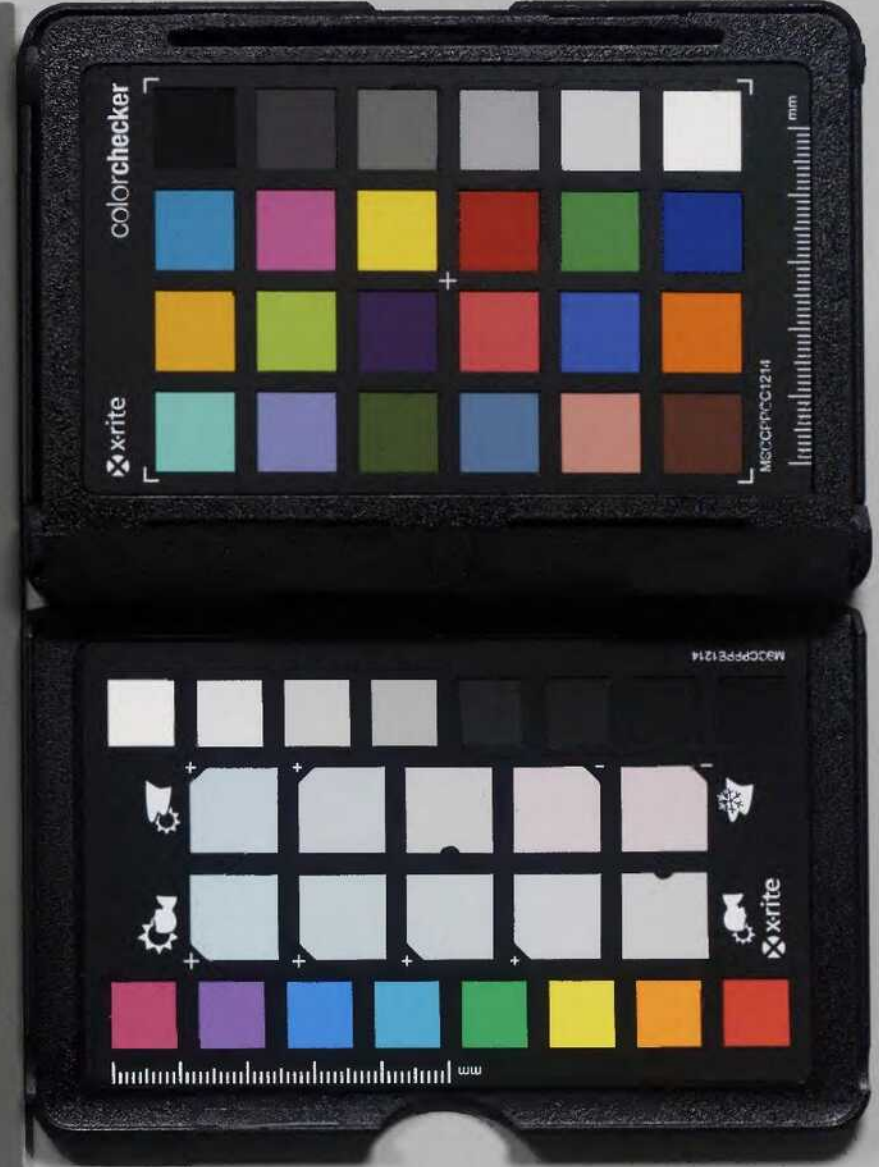


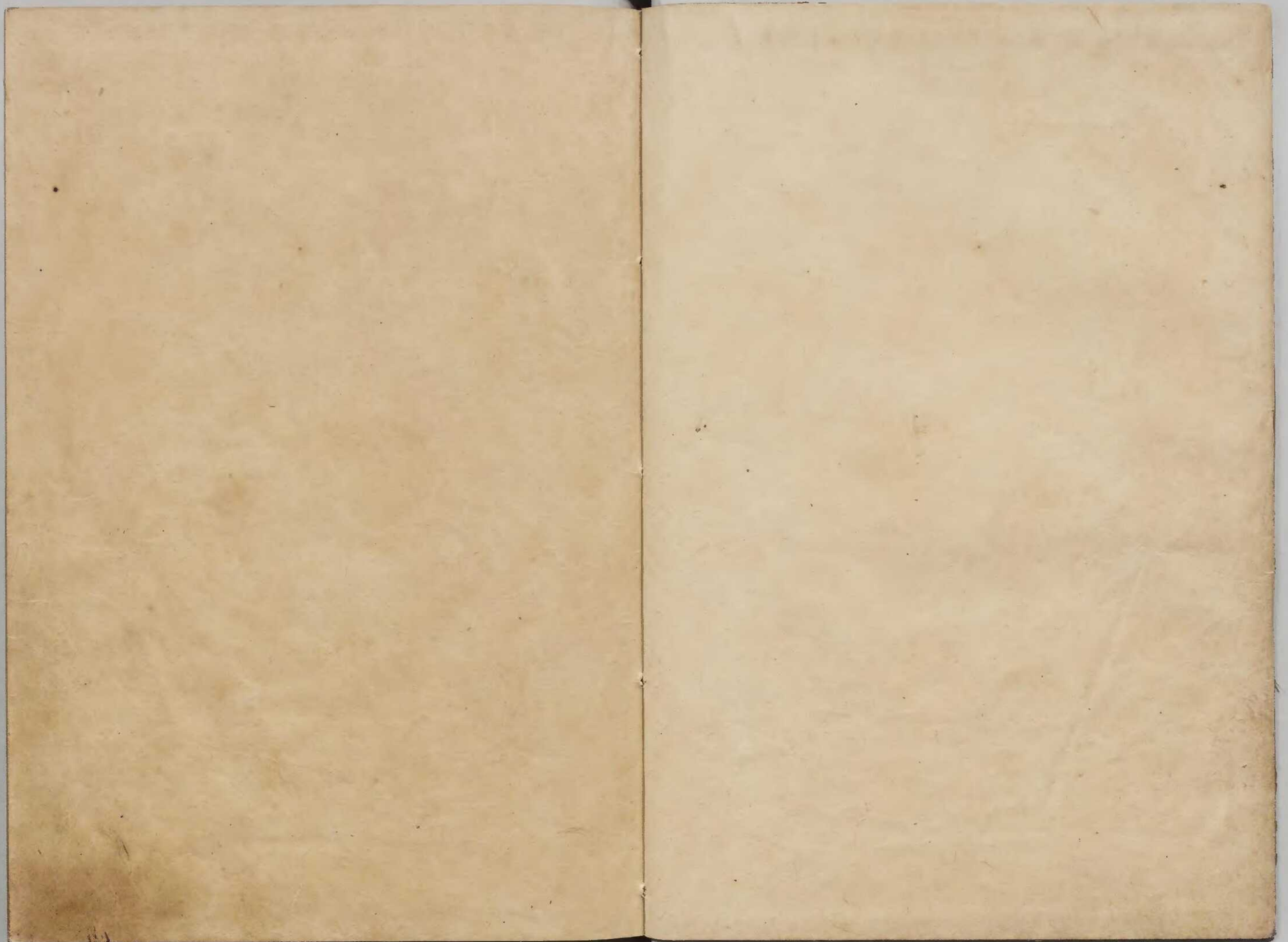
寛永諸家譜

清和源氏
支流
癸七冊之内

57

内閣文庫	
番號	和 20199
冊數	186 (57)
函號	特 76 1





牧野
死御
竹中
柴田

寛永諸家系圖傳

清和源氏

癸二

交流

牧野

河波氏初重能が嫡子田内信門教能
が後胤之河小河りて牧野氏と称せ

淺草文庫

成定

右馬允 生國之河 同牛久保の城小信と

東照大権現小治之小治之

永禄九年十月廿五日卒す 四十二歳

法名光暉

康成

右馬允 従五位下 生國岳城同前

大権現

台徳院殿へ修入る

成定死去の後一族出羽守と康成と

職は河らそひあ里と

大権現乃信りて河ら康成家督と

河連判の河書下下らなりび

下野守信えりて信

一従取難況海申来之有礼明一申

付之事

一主明おる状志切隆之出仕

有る事

一判形花向後河方難申根

許容有る安事 付 徳信人へ伝五六

人成く一おお汁

右条く不可有るお造若也の如件

永禄九年

愚藏

五月九日

家康沖判

牧野右馬允受

後沖禱の康の字と給り康成と

号す又

大権現の位ふりて奉別後務原とよ

りて武田信玄とおふ

天正四年務頼とよとて後川具富

此職成まを給

同十年後川具富とよまを給

同十一年

大権現小条氏政と不和よふりて共とす

めく小田原小寺ひさ信よと此康成

先づけとうけ給ふ

慶長十年十二月十二日卒と五十九歳

忠成の事跡

法名栄感

忠成

右馬允 五位下 生國同前

越後守 是れ城守居也

大権現

台徳院殿小治久をり神澤の忠の字をた

まふま後

將軍家より久も家

寛永十一年七月廿日 五位下に叙す

儀成

帯刀 生國上列大室

寛永十年九月初め

台徳院殿

將軍家より湯一平に

同五年沖書院沙番と勅し

台徳院殿寛永の後

系不審

將軍家より人より御書院番成勅也

同十一年御小姓組の御番成勅也

同十八年七月御命より御小姓組

此頭と此所

同十九年正月 御小姓組御番成勅也

重成

新三郎

成次

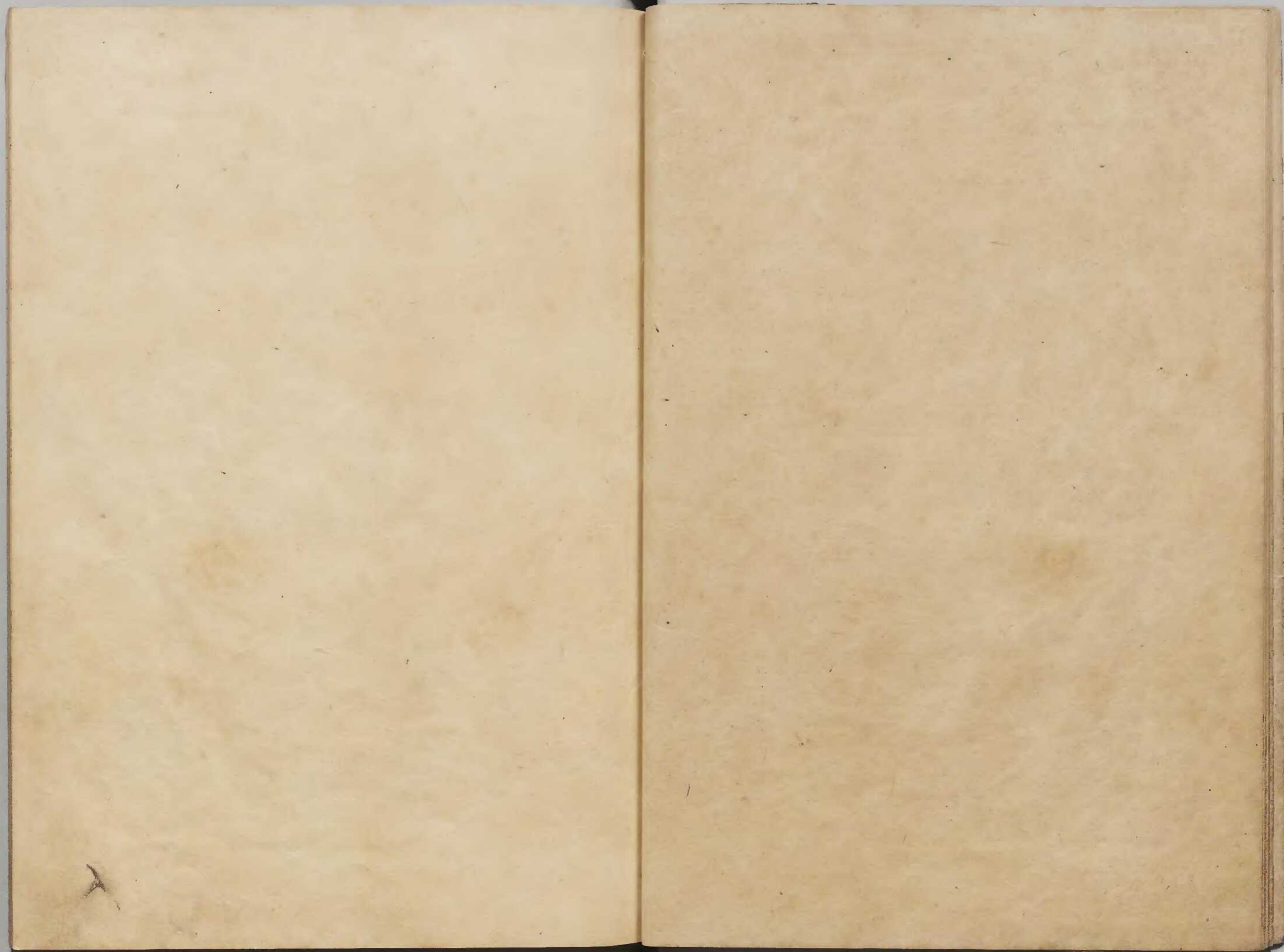
七

家紋丸の内小葉柏

勅小より十六葉丸

帯と先祖より御小より幕代紋より御旗

乞阿り



牧野まきのの

家傳けだん小こいいくく河波あいのえ氏ぶ重き能りが男
田内えんない傳たつた尉の教の能りが後胤いんなり

今いま案あんじじりりにに牧野まきの氏のをを出い取とりり祥しやう

小こ世せ寸すん重ちゆう能にが先祖ぜんもも又また分ぶん的てきなりす

志しれれどもも瀬波せなもも康成かうせい因いん近きん野の伝でん成せい

作渡さくわもも親成しんせい位い下げにに叙ぎよすす河野かのの

口宣くちのぶ源氏げんじととりり是こゝはは後のち々々今いま

あにりす

定成 さだなり

山城守 生國之河

東照大権現小治久多氏
元龜四年死と 法名順感

康成 やすなり

讃波守 生國同前

大権現小治久多氏

文禄五年五月十日位下小叙と
安永七年二月廿日死と 法名
宗哲

信成 のぶなり

内通歌 生國を列

安永五年南原陣のあしな信成のぶなりは
三後

大権現の御命ふり

台徳院殿小治り

同十年正月廿六日位下に叙す

同十一年 治より引く大沙妻の歌となり

同十五年 治より引く沖小治の歌

となり引く大の山番と勅じ

台徳院殿三河原山に引く沙欄乃と治

す

同十九年 沖書院番れり

同年の冬大坂沙陣れり

元和元年の春 治より引く丹伊揚の歌

孝より引く大沖妻の歌となり引く伏見の

沖妻の勅じ大坂参礼の時 御命によ

り大沖妻の歌五十騎と引く伏見より

引く大坂小治り

同九年大坂城沖妻の勅め

より引く小治り

台徳院殿小治り

將軍家よほくも

寛永三年

釣命えんめいふより江守えしゅ御ご為なり

番の紐ひもとなり御ご為なり法しやう子しと沙さ治じと

同十八年八月二日

竹千代君沙さ誕生たんじやう同九月御ご七しち取とれ御ご祝しゆ儀ぎ

おとき信成

將軍家の命によりおのづかきおなりくは

なむりともおきた 治ちよりく信成しんせい御ご為なり

ふはくくともよこ代しろしろ勤功きんこうと感かん

おりのすふより

竹千代君へ御ごけなまより

同二十年しやうじふねん朝鮮せんしん國王こわう

竹千代君の頃ころなむり之使しとくせく牙聘がへいと

七月七日之使し江戸より翌日あした信成

竹千代君れ上使しして之使しれ宿房しゆくぼう御ご為なり

小赴こしゆは是と妙たうなら同十五日

將軍家の治ちより信成しんせい位ゐ下げ叙ぎよせ

進しん御ご慈じ旨し何り同十八日之使し也城やじやうして

皮國王の別幅とさうげと産志をく

竹千代君の献寸時、信成

竹千代君の沖奏者より、と彼に礼曹

書管なりび、別幅は信成におく

信成、又返管なりび、音物とけり

八月の之使、御膳となす時、信成

竹千代君れと使、て中務寺におまじき

國王にけり、なす御別幅なりび、御音
物等と持、て之使、さげく又

竹千代君より別、之使、下、朝鮮人となす

取の銀子等、信成と配分、て、さげく

さげく

親成

佐渡守 生國長為

將軍家へけり、と

寛永九年十二月廿七日、佐下、叙

同十年正月十七日、御振書、設、さうげ

たよりにて奥方より伺作す

同年九月五日御歩此致と申す

同十九年三月十九日御書院書院此致と申す

之上騎馬歩率同心を以て

御前らくるに候なり

尹成

八大史 生國同前

御軍家より候なり

義次

信正

小笠原左衛門 生國同前

系圖別より

太島左衛門 生國同前

將軍家より候なり

教成

主殿 生國同前

竹下代君より候なり

車成 くるまなり

長初 ながはつ

生國月前

竹下代君よはりくもは

家紋丸の内よまが葉柏は

先祖忠節何りせんぞのちゆうせつ

時みことものり何りとき十六葉じゅうろくはは落着おちつきなほ

は落着おちつきなほ時ときよよりりて朝廷ていてい神故かみこは

ふよりのよふよりの葉柏はよよああららししむむ

為卿まゐ

● 正負ただち

彈だん正ただたた束たの

軍十二景ぐんじふにけいにに病びやう死し法はふ名な的てき傳でん

正勝ただかち

彈だん正ただたた束たの

法はふ名な的てき傳でん

東照大権現とうしょうだいこんげんよよははららふふををままのの如ごとし

永禄五年九月十日、東上川氏正、勝
が領地より、ひまわり、この時、正勝嫡子元正
一少く討死、よきあり、今川氏正、地味
より、江男清負、景海、ふりりて、は、事、よ、ま、く
時、見、成、ら、い、ま、す、援、兵、と、い、ひ、ま、り、て、の、仇
と、報、せん、と、す

大権現、よ、ま、り、ま、き、こ、め、一、の、勢、と、い、く、な、る
百助、兄、弟、大、湊、吹、立、即、ち、東、川、五、太、郎、の
植、村、世、也、と、渡、邊、久、兵、衛、の、弟、也、

よ、ま、り、ま、き、こ、め、一、の、勢、と、い、く、な、る
を、清、く、い、ま、り、清、負、け、得、と、同、く、一、く、發、向、せ
は、わ、り、一、の、領、と、い、り、の、事、と

元正

孫六郎 法名惠玄、父と同時、よ、ま、り、

清負

孫九郎 左衛門尉

大権現、よ、ま、り、東、川、氏、正、の、時、清、負、酒、井、左、衛、門、尉

小屬して先づけとなり幸列御賜乃後
 大権現の御氏が代に忠節と感表し給ひ
 て御感書とくさし給り

えとつこのやまひに
 今度宇治は山本筋肝要に作らる物に付
 此沙知の成に堪え忠節先少高
 産る為替代に百貫地お吉良河橋之
 百貫作の成式百貫小法師知の百貫
 井谷銀渡並中山之上東筋お
 留成作とお遊作の可き作事

御忠節に成る名
 此後向後如在中
 有愛と杉妻細な忠の厨行意事今
 如件

六月五日 松壽 家康沙判

西丸 系

文禄三年十二月十日病死六十二歳法名
 日極

家負

孫九郎 彈正左衛門

元龜二年之方原合戦の時家負殿と

かうし家時十六歳

大権現家負が幼弱ゆへて去勇のさか感

ト給ふ

天正三年長篠合戦の家負侍を

秀吉殿外に發向の時家負先づけり

けしぬりし者見れば出よじふまら

沖書に給るる今は是と可成と

同十八年小田原陣小家負侍を

同年下総公生實と相成と

同十九年九都陣の時家負侍を

慶長二年八月十日病死四十二歳法名

日如

忠貞

孫九郎

天正十年十二歳ゆへて初め

大権現と稱揚とよめ一も於時さきた文字なれハ脇指わきさし

と結むすりり
夢ゆめと五年ごねん開原ひらき津つ陣ぢんの信のぶ也なり津つ波なの
後のち伏見ふし小こ出でししと上かみ秋あき原はら侍さむらいが四よ宅たく小
居いと

同どう六む年ねん五月ごがつ廿にじゅう七日にち病やまひ死し之の十二じふに歳さい 法りつ名な
得とく義ぎ

康やす貞うぢ

新あらた太た郎らう 出で羽は守しゅ

兄あに忠ただ貞うぢもやく死して子こなれよとの康やす貞うぢ
その遺い詔みこととけぐ

毎年まいねん正月しょうげつ二に日にち津つ波な初はつめれとて津つ波な初はつめと
して石いし布ふとけくと席せきと侍さむらいす

夢ゆめ也なり十じゅう年ねん十二じふに月げつ廿にじゅう七日にち後のち五ご位ゐ下げの叙ぎよし
出で羽は守しゅ小こ伝でん也なり

同どう十八じゅうはち年ねん六む月げつ十八じゅうはち日にち死し之の二十にじゅう九きゅう歳さい 法りつ名な
日ひ玄げん

正負

孫六郎 若校也

兄康負子なり此ゆへ正負之家と云く

安長十九年大久保相換も罷りて配流

可なりと云き正負 物命小依と相列小田

原とおもひ

同年里見安房守流罪よ受せり此とき

正負中ぬ出雲も松平母波も同友なる助

戸伏右京を松平も見も大田原海あり日根

織部等と同く 物命とありて唐

列よ赴き里見が家人と遊致と

同年大坂陣の時正負も友なる助と云

しく 物命と云けたまはりて唐列の押

と云り

元和元年大坂幕礼の時正負小田原城に在

此押番と勤じ

同三年伏見陣城に在番と勤じ

同六年伏見乃陣加増ありて唐列も授那

小うはれ

同十一年十二月廿日あき位下に叙す給ふ

了ん任じ

寛永四年大坂に加番と勅じ

同十年清水門いそづの沙番又田安たやすにい番と

勅じ

同十一年大坂に在番と

同十五年十一月十日死に同十六歳はな名

日照ひかり

延負のり

孫六郎

寛永元年十一歳少して

台徳院殿

將軍家をい福ふとい給ふ

同十六年い家督かどくとい給ふ

將軍家へい人ひととい給ふ

同十七年十月十日延負のり極村きよくむら常刀とことい同

とく 納命小依之下 總正作舎花 花菱
と 勅じ

同十九年四月十日 依舎花 沖 黄紙一色
宮内省 御渡 迄 久 未 終 了 可 也

末負

主膳

寛永十七年七月十日 死 法名 日負

用負

主馬

寛永十八年

將軍家へ 侍 上野 河波 寺 継 少 之 儀 書院

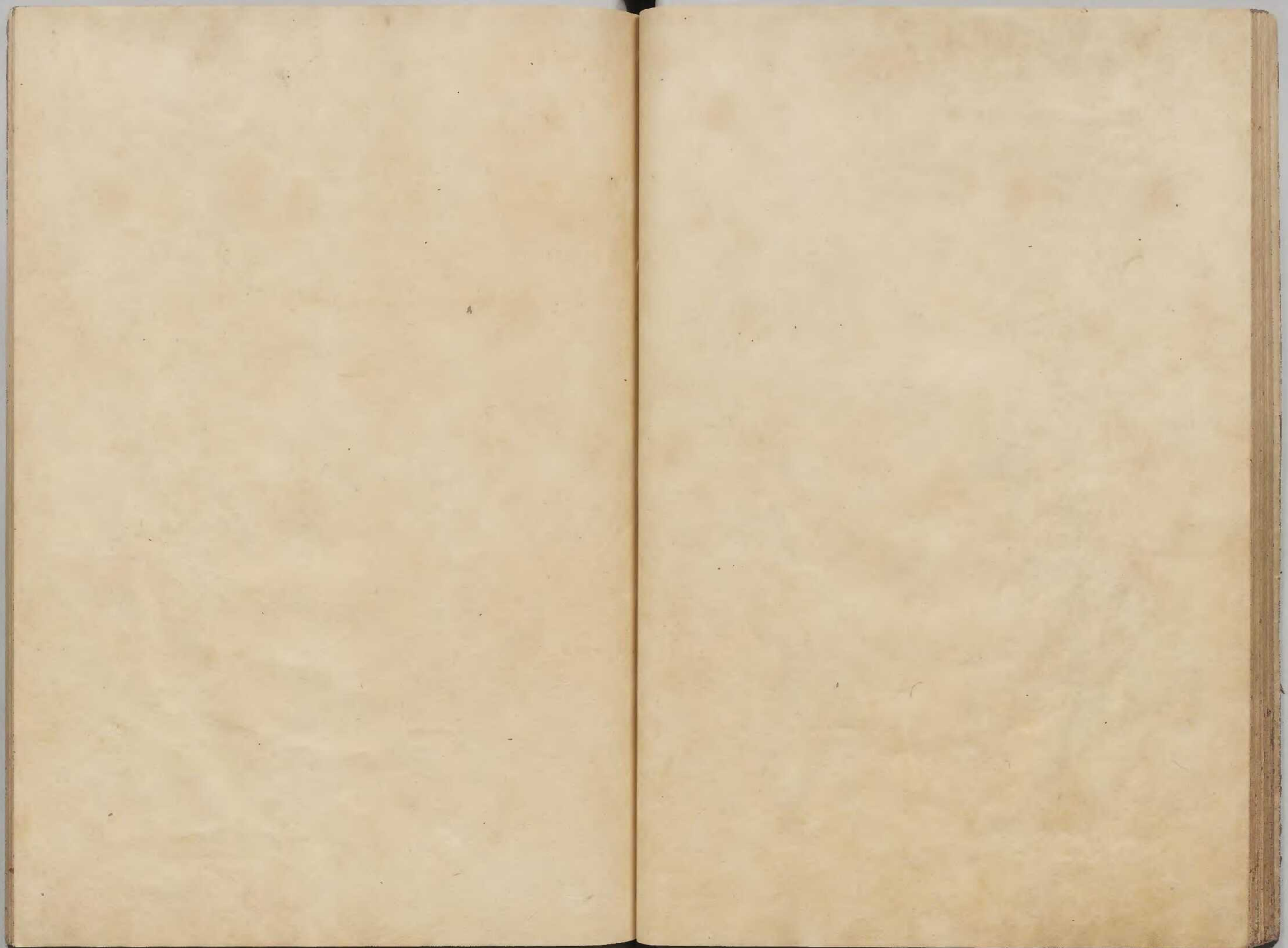
書紙 勅じ

女子

家紋丸の内 鷹 作 羽

中 菊 相 此 紋 之 為 氏 將軍 少 之 儀 書院

之 様 御 承 知 可 也 今 付 紋 小 改 じ



某

竹中

幸江守 英雄必池田 那小生 大津

堂下恒正

汝最山城守 道之小属 同玉不破 那若
此城一居也 六十二歳 少く病死

重治 きげらる

半六傳 生國同前 恒取同前

弟友山城守道三の孫新與波阜城は河

口と重治十九歳 弟河りく才久也十七歳

月く壬午十六と引ぬく波阜城は

口重治城は在昔从弟友新與と云り此也

口外款河もさうらとりくはあは波阜城

と云りふり新與はあは波阜城の時永禄

七年二月六日なり織田信長より重治方へ

牧度使はそと波城と相渡はそと云り若

来向といふも父をいふも弟友はそと云り

弟友み河新ゆへ城と新與はそと云り

口後重治波井波あも小属して又云と

云りて信長は信長に命にり孝信

秀吉は属して与りて謀臣と云り

天正三年長篠合戦の時信長は志す

戰場小野ひく

某

同七年六月十三日播州之平に病死歳
二十六秀吉ひでゆきよりふりて是をわしめし軍に
評議ひらぎありしにふりて重治むろぢが事ことは公
かせり

久作

信長のぶながよはふ

元龜元年六月廿日河内郡川合戦の時

久作ひささくのく人はつらけし明日合戦あすけりあひあつせんは我

かなしと浅井あさのゆきが家人けいじんを教しんむす

うらむるをよとむりし世よにあらまこ

えらり勇士ゆうしあつげ日このひは長ながと心こころふ

ひげひげ持もちうは久ひさ徳とく泰たいてとてはぬ

ふ事こと教しんむらむら

天正二年てんしやうに長なが藤ふじ合戦あひあつせんのとき信のぶ長ながよはふ

ひく教しんむらむら

同十年六月廿日之十七歳少く徳川とくがわ不破ふた
郡ぐん於お依よ村むら少すくく討うち死し

系

秀八郎

織田信忠小治ふ

天正十年六月三日智日向也送心此

信忠よ志こころひく京朝二條小治あつ討死

時小十八歳

重門

丹後守 恒五位下 流刑不破郡若狭小

生り 孝良秀吉小治ふ重門十六歳の時

秀吉の命にまゐりて恒五位下に叙せし

慶長五年石田治部右衛門成孫及此時重門

三郎地小阿りて上首たりとほり人治

是よりわ

东照大権現神巫判代沙書と重門なるひな

加茂左衛門尉と一通小治りる左衛門尉重門

が孫志よりゆ回取小陣ととるにまゐり

なりしと神書にいしく

後 鉤命有りて關原ハ重門が修地あり
志ろふと度戰場となりしといひりおが

しゆすよの 治あく八木子石と治りり

大坂あ度れ沖陣は信長と後おほい

台徳院殿

將軍家よりくも

寛永八年閏十月九日氏列治あく病
死歳五十九

重常 きつね

左京亮 城列伏見此里よせり

母ハ加夜喜江もが女

寛永十九年

大権現

台徳院殿をね福一を

大坂あ度れ沖陣よ信長

系

主膳 徳川 岩もようあり

交書 六の黒田 瓶お書 長政なり びよ

右衛門 作忠之よ びよ

系

権作 生國 同前

元和七年

台座院殿と ね瑞一 あり

寛永元年 百市 ねく 沖書院 書と

女子三人

勅じ

同日年 病死

系

吉之丞 母ハ 松原 伯耆守 ちが女

系

大膳

糸 いと

帯口 たてぐち

女子之人

家紋 いえもん 藤の丸 ふじのまる

竹中

重定

貞清

生國徳列不破郡

秀吉

長正

東照大権現

月十年

御命

小治平三後 治よらわて周防と称す
同十五年病死六十歳

重房 ちかふさ

吉十郎 生国山城 なまくにやましろ

安永五年九歳の時

大権現と称す 一より重定が家督とす

元和元年後川少く病死二十日

重賞 ちかあき

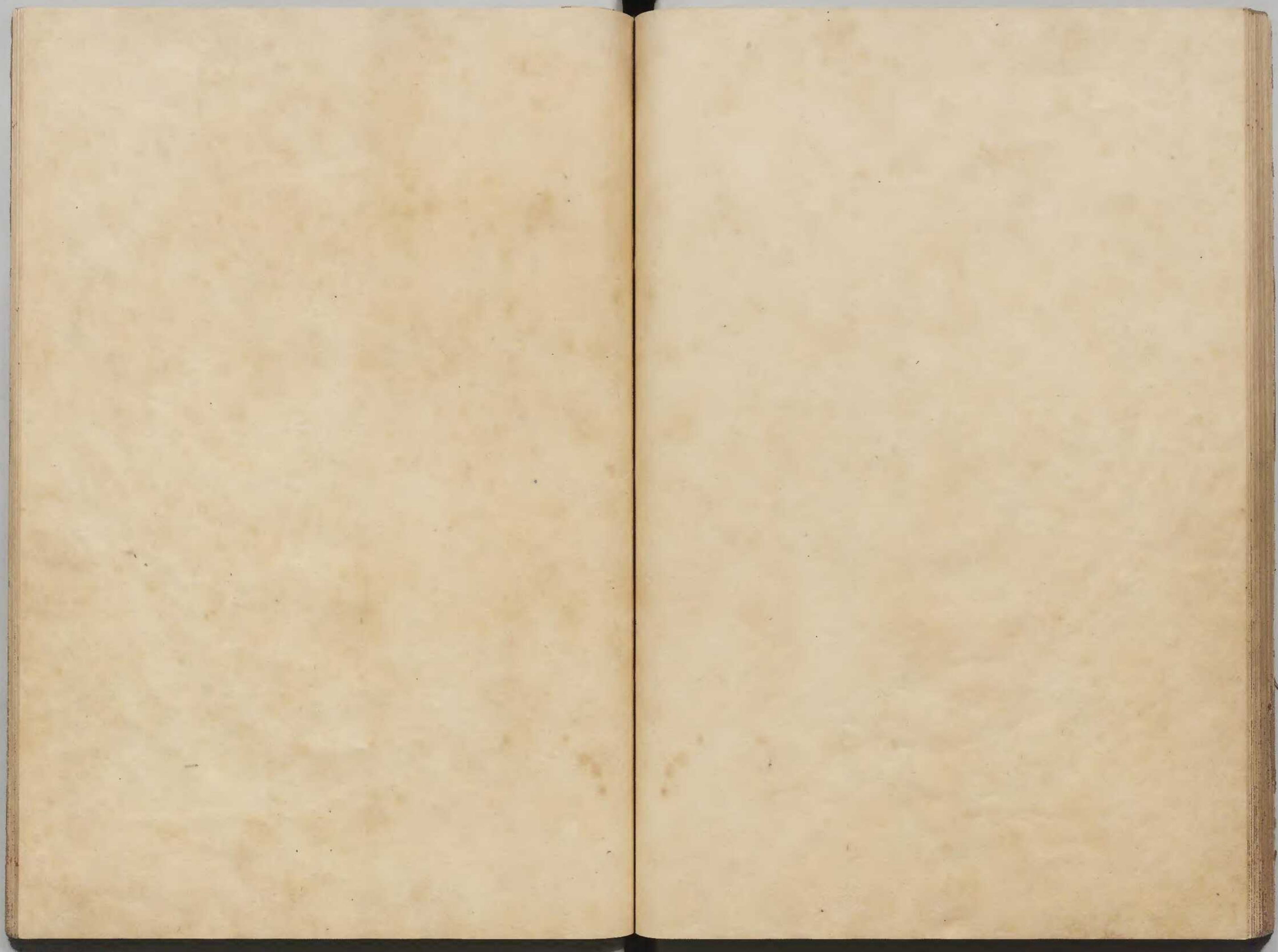
貞清の 生国後川

母八藏田民部少将の女 むはちざうたみんぶしょうしょうのむすめ

元和元年 治よらわて重房が家督と

す

家紋藤の丸 いなのゑんまき



柴田 まいたに

● 政之 まさゆき

江戶藩 やまと
生國 なまくに
廣忠 ひろちゆう
御下 ごげ

康忠 やすちゆう

孫七郎 後よ七九郎と号す生國 なまくに

東照大権現之別号崎小沖座のとき隣は
さくまのうらぐたひやじゆなり
康忠がら射藝とゆらゆらと名を
矢よこみ教百れ敵とせぐるれ矢
何よりて疵と叫り命とおとすの教
人敵うれ精兵練士の忠量と感して
つとられ矢六十ととり何れ又疵と叫
り死す敵のときとて我陣よとら
大権現こまの沖鏡と名を勇と感

ゆの沖禱の康の字は給りと旗紋
六十の字はけいこまの七九部と号
なまふ七九のときら六十の英法
大権現の治は今より後沖陣れと名
ゆらゆらと沖るれた右おはよとら
となり

大権現之別号を別と沖座治のとき康忠
家老の別あく信をよ
元龜二年之吉原合戦のとき石川伯耆守

救正すけただがらみ小河川こがわにて長田信玄ながたのしんげん先子まゝと
合戦くわせん一軍いっぐんと全まるごとしてゆり
天正てんしやう二十にじゅうも藤合戦ふじあひせんのとき先子まゝとあり
て軍忠ぐんちゆうとぬきんづ

同十二年

大権現おほごんげん詣まゐりて真田まゐと御征伐ごせいばつの時
康忠やすちゆう町口まちぐちより城下じやうげにせありて軍功ぐんこうあり
又また丸子まわらじ色いろふおわく詣まゐりてねん
番ばん瓜うり勅しやくじ一日いちにち康忠やすちゆう物見ものみ番ばん小河こがわより討うちよ

真田まゐ歩卒ふそとすめくたふ事ことすて急いそ
なり康忠やすちゆうこととたふく首くび成なりゆり事こと
教しやう級きゆうとてよして是初このはつ内番うちばん正ただと康忠やすちゆう小
河こがわよりいふたふ又また佐川さがわ伊久いさく船ふね若わか田たの小こ
屋やよこしとる勢せいとくまきよしとる

大権現おほごんげんの傳つたへて康忠やすちゆう河川がわにさしおれ
長田ながた家けの勇士ゆうし等らあり康忠やすちゆうよきとる事こと
田たと案内あんない若わかとてあし若わか尾おれお城しろとせあ
と伊久いさく船ふねの軍士ぐんしと討うちく沖お味み方かたよ

隆のまゝおり、後甲州に仕立と平
岩七の親者大久保七郎右衛門忠世
びよ康忠よ、治修けり親者八甲府
より康忠八位列、近衛那のうら高橋城と
まゝに

同十八年小田原陣の時忠世康忠
釣命とあり、沖先女とあり、後
東沖入五のとき上総小田喜城よ、赴
き貢税のよ、高砂治す

同十九年式列羽生城よ、おまじき、後
同五高橋ふおわく、妻使と給り、家
文禄二年五月廿六日病死、五十六歳、名
東白

康長

七九郎 親後も、位五位下、生國佐列
母石河十郎右衛門の女
文禄二年康長七歳のとき

大権隈を御賜し奉り給へば 治よりわて

台徳院殿小御入を御賜し奉り給へば

寛文五年三月陣北より奉り給へば 御賜し奉り給へば

信々小御入を御賜し奉り給へば 御賜し奉り給へば

小御入を御賜し奉り給へば 御賜し奉り給へば

同九年大坂藩の御賜し奉り給へば

同十年四月廿六日位下より叙し給へば

小御入の時十九歳

同十八年御賜し奉り給へば 御賜し奉り給へば

坂陣の時 伊勢守に御賜し奉り給へば

御陣を勤じ

元和九年御賜し奉り給へば

寛永元年御賜し奉り給へば

同二年御賜し奉り給へば

同三年御賜し奉り給へば

同九年

御軍家と御賜し奉り又御書院の御賜し奉り

御賜し奉り

同十年^同征^ち地^ち七^七百^百名^名此^此以^以信^信と^と取^取成^成す
同^同年^年沖^沖小^小姓^姓組^組の^の組^組取^取と^とな^なり
同^同十^十二^二の^の小^小姓^姓組^組の^の組^組取^取と^と何^何と^と又^又取^取書^書
院^院番^番の^の組^組取^取と^とな^なり^と与^与刀^刀同^同心^心と^と何^何と^とる
同^同年^年六^六月^月廿^廿二^二日^日江^江守^守小^小お^おお^おと^と病^病死^死年^年五^五
十^十法^法名^名月^月舟^舟

康久^{やまひさ}

七九郎 生國良^{なまくにら}

母^{はは}八^{はち}木^き右^{みぎ}近^{ぢか}左^{ひだり}直^{ちか}勝^{かつ}が^が女^{むすめ}
十^{じゅう}六^{ろく}歳^{さい}ふ^ふり^りて^て初^{はつ}め^めと^とす
右^{みぎ}軍^{ぐん}家^けの^の取^と成^{せい}と^とな^なり
寛^{かん}永^{えい}元^{げん}年^{ねん} 釣^{つり}命^{いのち}ふ^ふり^りて^て沖^{おき}小^こ姓^{せい}組^{ぐみ}
と^とな^なり
同^{どう}十^{じゅう}五^ご年^{ねん}三^{さん}月^{げつ} 治^ちよ^よら^らり^りて^て沖^{おき}小^こ姓^{せい}組^{ぐみ}の^の組^{ぐみ}
頭^{かみ}と^とな^なり
同^{どう}十^{じゅう}六^{ろく}年^{ねん}二^に月^{げつ}布^ふ衣^いと^とな^なり

康重

新長清 生國野

母ハ上ニ小ノ回ト

家ノ紋ノ友ノ丸ノ回ト一ノ文字ト

小玉のとききくもして越前守と仰て小
此店の城小指す

天正十年六月明初光秀遂心より信長

弒せし海へのよきときひに明初と返

治つるあ上海とよきときひに秀吉

播磨よりと海河りて光秀謀せしは

後播磨も京急すも後秀吉と兼持

おんりて信長孫ととりたるはこれ

月くまきして越前へ海路

系

播改

同十一年冬信秀吉と播家不和ありて
柳瀬よおわく信長正とよきときひに播家
うらまけ敗心す秀吉のいよりとよき
小の店とひいし勝家切腹す

檀六 播家の子

生國川前 播家の子

勝重

實ハ作スル久右衛門盛次が嫡男玄蕃允
盛政が弟なり盛次ハ勝家ウ婿年なり
天正十一年秀吉と合戦のとき勝家が
先陣ヨリミ志津嶽小おわく討死時
小歳二十七 伊久右衛門年長ウラ出

伊吹也 勝家が養子

主役勝家と不和なり秀吉ヨリ討死寸
病死寸

勝重

三たぬの 生國越前

勝家没落のとき勝重二歳少く六の
店と立返外祖父日根村に寄居せ
ら道二十一歳一して

東照大権現ヨリ人オ救すかりら
子石と相伝と

慶安五年同系陣代と伝は

書名 古事記 卷之四 四ノ下
三ノ下

同十九年大坂陣のとき平野口に
 おおと敵陣へひけ入敷テ取の成をりある
 うれ忠功より陣取陣の後者他五百名
 の加増と給り系

寛永九年正月廿五日病死歳五十二

勝次

帯刀

系

左を

勝定

系

助五郎

小助

女子

女子

堀田氏助書

勝興

三好忠門

生國氏列戸

元和六年九月一
將軍家と相^ふ湯^あ一^も家

寛永九年 信^{しん}重^{しゅう}が家督^{かどく}

信^{しん}揚^{りょう}

信^{しん}揚^{りょう}

依^よ久^く長^な久^く長^なの 依^よ久^く長^な不干^{ふん}長^な子^しと^なり

寛永十四年九月廿二日死^し

揚^{りょう}利^り

半^{はん}兵^{へい}揚^{りょう}

信^{しん}重^{しゅう}

會^あ田^い源^た右^み揚^{りょう} 會^あ田^い七^{しち}郎^{りょう}右^み揚^{りょう}の長^な子^しと^なり

揚^{りょう}忠^{ちゅう}

少^{しょう}五^ご郎^{りょう}

女^{にょ}子^し

依^よ久^く長^な甚^{しん}九^く郎^{りょう}が書^め

女^{にょ}子^し

奥^{おく}山^{やま}次^じ右^み揚^{りょう}の書^め

女子

版高七共清々妻いひたう

家紋丸の内小二層このいんまろ

